

鳥原高速バス停をきれいに

高速バスの鳥原バス停留所は、昨年九月の調査で一日の利用者数が延べ九百人。町内にある新潟交通電鉄のどの駅よりも乗降客数が多い。新潟市内からはもちろん、三条、長岡、上越、新井などからも直接黒埼へ行き来できる。

その時、このバス停が黒埼という町の第一印象になるはずだ。そんな意味で「町の顔」と言えるかもしれない。

そのバス停を定期的に掃除している人がいるという。聞いてみると蓮方団地の長寿会老人クラブが月一回、第一月曜に掃除をしているのだった。

蓮方団地長寿会老人クラブの会員は現在五十八人。活動内容はというと毎月第一月曜のバス停掃除と第三月曜の団地内の公園の掃除といった奉仕活動のほかは「ゲートボールの練習をするくらいかな」と会長の小出金一さん。

その小出さんに、鳥原バス停の掃除についてお話を伺うと「会長には今年なったばかりでね、前の会長が始めたのを引き継いだだけなんですよ」との答え。「でも、いいことだし、月一回では少ないんじゃないかと思うくらいです」そこで前会長の宮田さんといっ

しょに掃除を始めた北上登喜英さんにいきさつをお聞きした。「昭和五十八年にこの老人クラブができたんですが、のんびりだらりんとしててもしょうがない、何かしようよと、ちょうどバス停がそばに

あったので、掃除することにしたのです。今は毎回八人ほどが集まって階段や待合室をはいたり、駐車場のゴミを拾ったりしている。さらに、最近ではバス停にホウキ

蓮方団地長寿会老人クラブの皆さん



バス停を掃除されている蓮方団地長寿会老人クラブの皆さん。下段左から、広川三男さん(73歳)増田佐吉さん(75歳)小出金一さん(会長・63歳)中段左から小野塚鈴枝さん(67歳)波多野トシさん(63歳)上段左から塚田留治さん(蓮方団地自治会長・61歳)北上登喜英さん(77歳)吉田一男さん(68歳)。いつも、あと2,3人が掃除の常連だという。

やチリトリを常に置いてる。高速バスを利用するついでに、そのホウキを使ってさっと一はきする人もいる。小野塚鈴枝さんもその一人。「せっかくだから利用させてもらってらんでから、ふだんからきれいにしておきたいですよ」

こうした活動のある一方で、利用者の方が疑われるような行為が目立っている。壁や窓ガラスが壊されたり、落書きされたり。駐車場の自動車もイタズラされたり、自転車も盗まれたりもするという。もちろん、一部の心ない人たちにやるしわざだろう。

「でも、三条のバス停に行ったらことがあるが、こんなに壊されたりしてはなかったね」と掃除仲間の広川三男さん。このバス停をきれいに保てるか保てないかが、町や市民の印象を左右することは間違いないだろう。

ほんの一冊

ことわざ絵本

五味太郎・著
(岩崎書店)

「さるも木から落ちる。このことわざを現代風におきかえれば

「おまわりさんもスリにあう」。「馬の耳に念仏」は「ゴジラにお世辞」となる。このごろ、ちょっと忘れられがちなことわざを楽しく言いかえ、クスリと笑ってしまうイラストが親しみやすい。国語の時間に教室で覚えさせるより、ずっと楽しくおもしろく覚えることができる。著者にはこのほかにも「さる・る・る」や『五味太郎・言葉図鑑』など幼児むけの本で言葉の教育に力を入れているが、大人の心にもあたたかな灯をともしくれる。深い観察の中にも著者の人間に対する優しさが伝わる一冊、ぜひ一読を。「百聞は一見にしかず」。(北部地区公民館にあります)

(紹介者・尾崎久美子)

人の動き

6月末日現在	(前月比)	前年	(同月比)
人口	23,408 (+29)		[+247]
男	11,470 (+12)		[+129]
女	11,938 (+17)		[+118]
世帯	6,265 (+8)		[+108]
6月1日～末日			
出生	30	転入	58
婚姻	11	転出	48
死亡	11		



◎来月号の表紙

来月号は六月議会についてお知らせします。表紙はぐつぐつと夏らしい「夏の思い出」すか。この夏の思い出にそうまできこことをお聞かせください。

近ごろ、空を見ることに興味が出てきた。夏間なら雲、夜なら月や星。雲は層雲、積雲など大きく十種類に分類されるという。そんなことを知って、あれは高層雲、あれは巻雲などと思って雲を見ていると楽しめる。翌日の天気傾向なども雲を見ているとだいたいつかめるようになるらしいという実用的な楽しみ方もある。▼月や星についてはいうまでもないだろう。星座をいくつか覚えるだけで、心が豊かな気持ちになる。▼プリアーサヴァランの「美味礼賛」に「新しい御馳走の発見は人類の幸福にとって天体の発見以上のものである」という一文がある(先ごろ亡くなった開高健の小説「新しい天体」のタイトルはこの文からとられた。でも、グルメンという言葉が飛びかかると現代日本では、逆に「新しい天体の発見は人類の幸福にとって新しい御馳走の発見以上のものである」などと誤って見えてくる。▼確かに腹の足しにはならないだろうけど、腹の足しになる以外のことを考えられるのが人間だ。人間らしさとか心の時代というなら、無益なことを考えたりやったりすることを重視しなくては。決して、無駄ではないと思う。

